

杉並区 旧篠崎家住宅主屋

きゅうしのざきけじゅうたくおもや



古民家情報

建築年代：寛政年間(1789～1801)頃

規模：桁行7間・梁間3.5間

構造：三つ間取り広間型

寄棟造り・茅葺型銅板葺き
杉並区指定有形文化財(建造物)

しもいぐさ

杉並区下井草 5 丁目にありました。昭和 48 (1973) 年に杉並区に寄贈され、平成元 (1989) 年、郷土博物館の敷地内に移築する際、建築当初の状態に復原されました。間取りの形式や構造などから、
建築年代は寛政年間 (1789 ～ 1801 年) 頃と推定されています。

篠崎家は下井草村の平均的な本百姓層の農家でした。当住宅は、武蔵野平野部の古い開発村の典型的な農家の住宅として、重要な意味を持つ文化財です。土日祝日の午後には、いろいろに火を入れてお客様をお迎えしています。

ご利用案内・アクセス

開 9 : 00 ～ 17 : 00 (月曜日・第3木曜日休館・ともに祝日の場合は翌日休館)

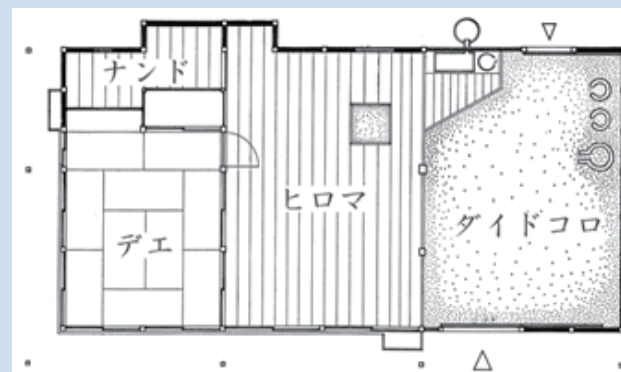
料 100 円 (中学生以下無料) ※旧井口家住宅長屋門は無料で見学できます

所 杉並区大宮 1-20-8 杉並区立郷土博物館内 **交** 京王井の頭線「永福町」駅下車徒歩 15 分、「永福町」駅・JR 中央線「高円寺」駅・東京メトロ丸ノ内線「新高円寺」駅から関東バス又は京王バス「都立和田堀公園」下車徒歩 5 分

問 杉並区立郷土博物館 Tel.03-3317-0841 Fax.03-3317-1493

その1! 間取り

見どころポイント!



本建築の間取りは、三つ間取り広間型と呼ばれるもので、江戸時代中頃までは杉並区内で一般的な間取り形式でした。

三つ間取り広間型とは、土間沿いの梁間いっぱい細長く広間をとり、上手を表裏2つに分ける形式をいいます。いろいろのある板張りのヒロマ、デエと呼ばれる畳敷きの座敷と、その裏手のナンドで構成されています。

その2! 長屋門



杉並区宮前 5 丁目にあった旧井口家住宅長屋門です。文化・文政年間 (1804 ～ 1830) 頃の建築と考えられています。区有形文化財 (建造物) に指定され、現在は郷土博物館の表門として親しまれています。井口家は江戸時代に新田開発を行い、名主を務めました。